

エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

Heroldo de HEL

N-ro 181

Januaro 2019

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- ・表紙、Enhavo/目次 P. 1
- ・ Internacia tago de gepatra lingvo/ 国際母語の日 P.2
- ・ Pasporta Servo en Germanio/
パスポートセルヴオの記録①/ 覚知頌春 P.3
- ・ Kelkaj demandoj al Zhou(el Esperanto, nov/2018) P.5
ミュージシャンズ.....へのインタビュー/後藤義治
- ・ Prelego pri Esperanto-movado kaj lukto defendi P.9
Homajn rajtojn /講演「E.活動と。。人権を護る闘い」/星田
- ・ 反体制 Esp.運動とかくされた歴史の暗部/星田 P.10
- ・ Kontraŭreĝima Esperanto-Movado ../ HOŝIDA Acuŝi P.11
- ・ 私にとっての青春(高齢者の主張から)/朝井喜一郎 P.13
- ・ Feina Rinfo/ H. Ŝirahama P.14
- ・ Danke ricevitaĵ (星田淳扱い、読みたい方は.....) P.16
- ・ Gramatika komento / 文法メモ/ HOŝIDA Acuŝi/ P.17
- ・ Protokolo de la 2-a Komitata Kunsido de HEL / P.18
Kasjaro 2019/2019 年度 第2回委員会 議事録
- ・ [編集後記/Redaktanto parolas] P.20

Internacia tago de gepatra lingvo

国際 母語の日

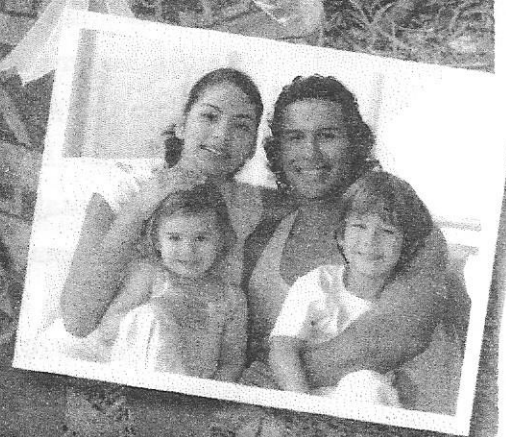
2019年
2月21日



国際語エスペラントと
人類の多言語性を結ぶ
世界 Esperanto 協会

2週間に1つのペースで
消滅しつつある先住民族の
言語を守る必要があります。
それは人類の遺産にとって
取り返しのつかない
損失だからです」

(ユネスコ事務局長)



国際語エスペラント(Esperanto)を使うことによって、
私たちは国際先住民言語年の今年も
世界の言語的・文化的多様性を尊重し支えます。

Pasporta Servo en Germanio/パスポルタセルヴォの記録①

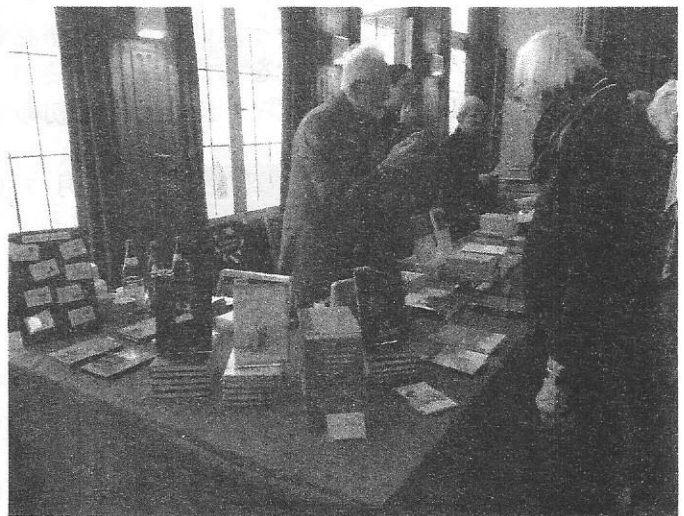
覚知頌春

2018年8月30日にドイツに到着して、もう4か月くらいたった。これまでキールを住みかとしてきた(今後もそのつもりだ)が、郊外にもよく出かける。その際、エスペラントのパスポルタセルヴォ(以下PSと略)を使うこともあった。これはその記録である。

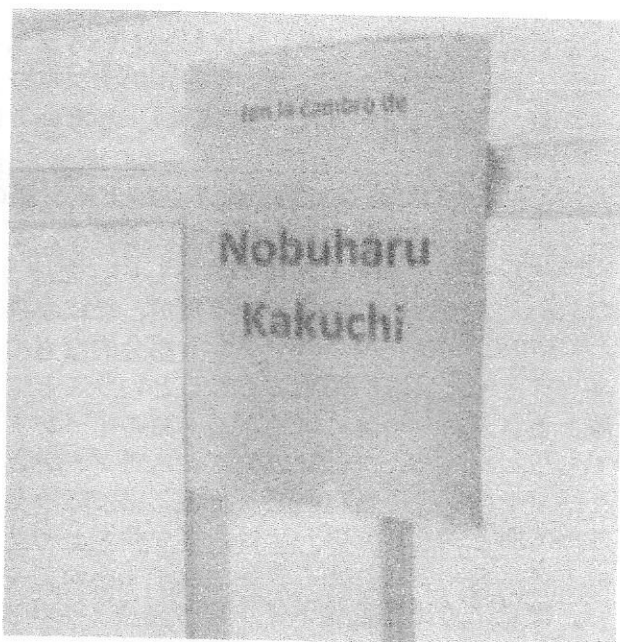
まず到着してすぐ、キールにいるというエスペランティストにPS上で連絡を送った。が、返事はなかった。キールのエスペラント協会のようなものにも連絡を送ったが、返事はなかった。まあいい。こういうこともある。

11月、ハンブルクで開かれる低地ドイツ語のイベントに参加する機会があった。このイベントは土日にもたがっているの、どこかで泊まった方が楽だ。キールとハンブルクを往復するのはバカらしい。ということで、PSを利用することにした。はじめ一人の女性に連絡を送ったが、なにか事情があるらしくその人はダメで、代わりにハンブルクのエスペラント協会的なものに僕の情報を流してくれた。すると、ユッタという女性が泊めてくれるということになった。11月3日にハンブルクに着くとユッタと一緒に低地ドイツ語のイベントに参加した。昼飯のスープをおごってもらった。ユッタは郊外のブクステフェーデという街に住んでいるということで、イベント終了後は電車に乗ってそこまで行った。ハンブルクから少し西にいったところにあるブクステフェーデは、『ウサギとハリネズミ』という童話の舞台であるとユッタは教えてくれた。夕飯はカレーをおごってもらった。うまかった。ありがたい。部屋に着くと低地ドイツ語の話や、サハリン遠征の話をした。写真をUSBに入れていたので、ユッタのパソコンで一緒に見た。ユッタは他のエスペランティストと一緒にキューバに行った時の写真を見せてくれた。

翌11月4日、ユッタの家で朝飯を食べた。インスタント味噌汁を作ったが、ユッタはキノコアレルギーということで、僕は味噌汁にキノコが入っていないことを証明できなかつたため、2つ味噌汁を飲んだ。ハンブルクでは引き続いて低地ドイツ語のイベントに参加した。低地ドイツ語の本の見本市ということでたくさんの本が並んでいた。ちなみに店員の一人が、木村護郎さんを知っていた。どうやら一緒にドイツの大学で勉強し



その次の週には、アルバースドルフというところで低地ドイツ語の会話サークルがあった。PS をみるとアルバースドルフにもマーティンというエスペランティストがいるという。さっそく連絡をしてみたところ、OK をもらえたのでアルバースドルフには泊りがけで行くことになった。当日、電車が遅れたため到着が2時間遅れたが、11月10日の19時ころ、アルバースドルフに着いた。駅では、マーティンのパートナーのイエンスが出迎えてくれた。マーティンは緑の党の活動があるとかで、この滞在では会えなかった(しかし、次回会えた)。イエンスは、低地ドイツ語の話者で、僕が低地ドイツ語を調査していると伝えると、歓迎してくれ、2人のときは常に低地ドイツ語を話すことになった。着いたその日は、夕飯をごちそうになった後、ブンゾーにあるイエンスの実家に連れられ、イエンスの実家のパーティーに参加した。古い農家の家で、低地ドイツ語の話者も何人かいた。翌11日、低地ドイツ語の会話サークルにイエンスと参加した。その日の午後は、イエンスの自宅にあるサウナに入った。



そのさらに次の週、11月17日に、再びアルバースドルフに行って、低地ドイツ語のイベントに参加してきた。イベントでは、低地ドイツ語の歌や朗読が披露されていた。別の機会に知り合った低地ドイツ語話者の紹介で、僕もステージに上がって低地ドイツ語で自己紹介をした。それが終わった後、イエンスとマーティンの家に行って一泊した。マーティンにはそこで初めて会った。



12月7日～9日にもイエンス&マーティンの家に行って、今度は2泊した。この時はイエンスとマーティンが8日～9日の間フレンスブルクに行っていなかったの、その間、この家の子どもであるマセル、猫のヴァズィリとヒロシと一緒に留守番をした。9日、低地ドイツ語の会話サークルに参加し、自分の作った方言調査アンケートを渡した。イエンスにも何部か渡して協力してもらった。

Kelkaj demandoj al Zhou Mack Mafuila
(el Esperanto/UEA novembro 2018)

ミュージシャンズー マック マフィラ へのインタビュー

ズー マック マフィラはエスペラント界でよく知られたアーティストだ。例えばフランスのリールで開かれた第100回UKからポルトガルのリスボンでの第103回UKまで、三年間に渡って彼のコンサートはエスペランチストを大いに楽しませた。

記者：いつどこであなたはエスペラントを知り、学びましたか

Zh. M. マフィラ：1982年コンゴ民主共和国の南東部にあるルカーラ市でエスペラントに出会いました。兄達がエスペラントを話しているのに気付いたのが始まりです。兄はントワントニ バギディラング先生に習ったそうです。先生はアフリカエスペラント運動の先駆者で、その時すでに多くのエスペランチストを送り出していました。兄もその一人です。

家でも兄はエスペラントを話し始めた、私も無意識に幾つかのエスペラントの単語が頭に残ったが、残念なことに兄は勉学のために家を離れ、我が家からエスペラントが消えた。

私もコンゴの首都キンシャサに追っていった。だがエスペラントへの情熱がどちらかといえば教育学の勉強へと移って冷めて行く。そればかりでなく、他にもアマチュアのバンドで歌を歌っていた。

ある日、学校でガールフレンドから「街へ行ってアイスを舐めながら散歩しませんか？」と誘われた。バスに乗り目的地に着くと、そこに新聞売りがいた。路地で色々な新聞や雑誌を売っていたが、野次馬根性で近付いてみると“ティン君の意外な出来事”という記事が目に入った、なんと文はエスペラントに訳されていた。“金色のハサミを持ったカニ”という記事がエス訳されて掲載され、緑の言語について詳しい説明がついていた。その記事で兄たちが話していた言語の記憶が私の頭によみがえった。

まずはルカーラへ行こうと思った、キンシャサからは216 Kmある、そして兄の教師であるN. B. ンガング先生を探そう。私は休日待ち遠しかった、休日になるとすぐに列車の切符を買って、ルカーラへ向かった。幸せにもンガング先生は市内にいた。早速お訪ねすると先生は生徒や息子さんにもエスペラントを教えていた。先生は私との再会にちょっと驚きながら「何か御用？」と聞かれた。「エ

スペラントを教わりたくて参りました」というと、大変喜んで他の生徒と一緒に講習会に加えて頂いた。数ヵ月後、私はエスペランチストになり、ほかの人々にもエスペラントを勧めるまでになった。

記者：いつエスペラントで歌を歌おうと思い立ちましたか

Zh. M. M: 私がルカーラで最初のエスペラント会合に参加した時、エスペラント組織活動家達とモリエールンガング（先生のご子息）さん等が“ザイール青年エスペランチスト機構”を立ち上げる準備をしていた。その頃コンゴでは、生まれたばかりのエスペラント活動に積極的に参加する人が出てきた。

私はザイールのエスペラント学会（E I Z）の副議長に推薦された、その他にザイールのエスペランチスト青年機構（Z I J O）も立ち上げ、そしてその責任者になった。

当時、私は幾つかのミュージックバンドのメンバーだった。と言うのも私は子供のときから歌っていた。最初は教会のコーラスで、それから“コンガ ルンバ”のミュージックバンドを渡り歩いた。エスペラントで歌うのは自然の成り行きだった。私が始めて編曲したエスペラントコンサートを開催したのは1983年、コンゴのルカーラで第1回エスペランチスト総会が開かれたときだ。

記者：どうしてエスペラントで歌おうと思ったのですか。あなたが世に問うた最初の歌はなんと言う歌ですか

Zh. M. M: 最初の歌は“陽の光”です。当時ドイツに住んでいたデニス タンバ ロックが自分のディスコで歌っていた歌です。歌詞はエスペラントの書き下ろしだった。私は“陽の光”を繰り返し歌った。1987年ザイールの国営テレビでその歌を生放送で歌う話が入った。フランスからタイミングよくエスペラントの活動家フリップ シャヴァンさんが駆け付けてくれた、番組はとても有意義に展開した。エスペラントの国際性を具体的に示せたからだ。放送の中で、我々はエスペラントが世界に発展していく話しをし、最後にエスペラントで2曲歌った。放送は大成功だった。そのおかげで沢山の人が道すがら私に声を掛けてくれた、しかしもっと大事なことは多勢の人がエスペラントを認識してくれたし、そのうちの数人が今エスペランチストになっている。

記者：あなたが作詞作曲された多くの歌の中で、自信作をあげるとすれば何という歌ですか

Zh. M. M：私の持ち歌では“種族間の愛”がとても気に入っています。このタイトルでCDになっているから、レコード屋さんに行けばきっと確かめられますよ。

記者：あなたはコンゴ民主共和国の出身ですよ、祖国について少しお話して頂けませんか

Zh. M. M：私の国は今厳しい条件下にあります、ご存知のように状況は混沌としています！とはいうもののコンゴ民主共和国はアフリカでは大国のひとつです。だから想像以上の富裕国の素地はあります。そのコンゴ民主共和国はいま貧困のどん底に低迷している、自然の豊かさの中で、民衆が貧しく生きる姿は較べるものがありません。戦争は限りなく民衆を殺戮し略奪している、でも軍部へ異議を唱えられる人はいません。軍人まがいの輩が勝手にわが国に入り込んでコンゴ人を殺し、すばやく森の中に消え去る！連中は有り余る地下資源が目当てのようだ。それがコンゴの人民にとって苦しみの根源に成っている。人々は今の独裁政治体制から抜け出そうと、希望を捨てずに民族自決の投票を待っているのは、偽りのない生活できる環境を民衆にもたらし、平和な国造りする政府である。時流に流されず権能をあらゆる手段を用いて守り抜く国家体制である。

来月11月23日、国民投票の公布ができなければ、その前に何が起こるか判らない状況にあります。

記者：あなたにはアフリカの持ち歌が何曲かありますね。その歌の主題はどのような形で生まれたのですか

Zh. M. M：私は吾が大陸の歌を時には歌っています、それは私がこの地で生まれ、この目で大陸を確かめて来たから、私はそれを歌で表現しているのです。私もボブ メアリーやジョニー クレグ、ミリアム マケバなどのように音楽家として王道を歩みたいと願っている。この人たちはアフリカを守り人々を守る、そして氏族を通して人間の尊厳と権利のフィールドで音楽を用いています。

そこに生活している人々が自由と権威ある平等な人間の権利を持つてなければ、人類は決して平和を手にすることはできないと私達は

確信しているのです。

記者：アフリカでは国際青年エスペラント大会も開かれ、少しずつエスペラント運動が活発化していると思います。今、あなたがアフリカの盟友に伝えておきたい事はありませんか。

Zh. M. M：私はアフリカでエスペラントが発展したのを目の当たりにして、とても幸せである。我々がアフリカでエスペラント運動を始めた1980年代には、我々がやったその仕事が良い果実を結ばせると信じて疑わなかったが、でもインターネットが更に効果的で速やかに世界のエスペランチストをひとつにするなんて全く想像する事はできなかった。

とは言うものの、本や他の必要なツール、宣伝や我々の言葉を有利に知らせる方法が欠落していた。いつの日か私たちは長い道程を歩みエスペランチストに出会い、この言葉を広げようと思っている。今、インターネットは国を超え、民族を超えて世界の人々とあつという間に出会うことができる。そしてそのツールはアフリカのエスペランチストにとって便利この上もない。道具立てが揃えば我々もスピーディに組織固めができ、前進できることになる。が言うまでもなく、財政上の問題がアフリカのエスペランチストとインターネットとの結び付きを難しくしている。だが、それは本筋ではない！私はアフリカの同志たちに呼びかける、「新しいエスペランチストに情熱をもって募ろう！どのような場合でも誠意を持ってエスペラントを広げよう！」この行動でエスペランチストが増えたときこそ、彼らの貢献のスタートであり、美しい我らのエスペラントを一步前進させたことに成るのではないのでしょうか。

記者：ご協力有難うございました

これはUEAの機関誌“**ESPERANTO**”の2018年11月号1329号記載 *Kelkaj demandoj al Zhou Mach Mafuila* の訳文です

文責：札幌エスペラント会 後藤義治

**Prelego pri Esperanto-movado kaj lukto defendi
Homajn rajtojn**

Tio okazis en kunsido de La Nacia Helpe en Tomakomai
(2018.11.10)

第40回日本国民救援会苫小牧支部大会

とき 11月10日(土) 午後1時

ところ 苫小牧サンガーデン会議室
(末広町3丁目)

特別講演

エスペラント活動と人権を守る闘い

講師 苫小牧エスペラントの会
代表 星田 淳さん

エスペラント(平和・友好を目指す地球市民のための易しい国際共通語)は、1906年から日本で普及運動が行われています。1942年(昭和17年)に治安維持法の改悪として、予防拘禁制度を新設して、思想を理由とする拘禁を可能とする「思想犯前歴者の措置」による派遣事業を東条内閣が閣議決定した。数少ない生存者であるエスペランチストとの交流。

安倍政権は憲法改悪をめざしてアメリカの従属の下で戦争する策動こそ人権侵害の根本原因です。

小林亜星が語った母の思い出

9月10日夜NHKのBS・Hiで「わたし子どもだったころ 小林亜星編」が放映され、亜星は「母がエスペラントの仲間と会合中特高警察に踏み込まれるとさつと文書などをかくして窓から逃げた」と母の思い出を話していました。その頃聞いていた、という「インターナショナル」も歌ってくれましたから、当時「プロ（プロレタリア）・エス」と呼ばれた反体制エスペラント運動だったのでしょうか。

民族・国境の壁を破って「二つの国際語」で世界の人々の心をつなごうとするエスペラント運動に魅力を感じる反体制活動家は当時多かつたようです。

刑務所に入るたびに外国語を一つ学ぶ「一犯一語主義」を称した大杉栄はまずエスペラントから始めました。これに習ってか、獄中からの学習希望者が結構あつたらしく1929年東京で開かれた第17回日本エスペラント大会では、これらの人にエスペラント書籍の差し入れをするため献金しようとの提案が「満場の賛成により」可決されています。この時代のエスペラント運動には左翼のプロ・エスと中立主義運動（左翼はこれをブル・エスと呼んだ）

の二系統がありました。はつきり別組織になつていたり、同じグループの中に混在していたり、地方によって事情はさまざまだったようです。

治安維持法の時代でした。当時の特高警察はあらゆる文化活動も監視しており、干渉も頻繁でした。札幌エスペラント会では先手を打って幹部の名で「赤色分子入会拒絶宣言」を出して警察などに通知。特高警察官と打ち合わせて「警察で必要な報告はこちらから出すから会員個人に

反体制エスペラント運動とかくされた歴史の暗部

対する事情聴取、呼び出しなどは一切しない」ことを約束させました（実は時々破られたのですが）。各地のほかの地方会でも警察への対応にいろいろ苦労があつた様子です。

「マレー語（インドネシア語）を思い出そうと図書館から借りた本を返し、次に昔勉強したエスペラントをまた始めたい」とのハガキが連盟に来たのは1978年ごろでした。マレー語は戦争中ボルネオにいたので、エスペラントはその前函館

にいた頃やつたが治安維持法で投獄されたこと、エスペラント大会に来てもらつたり、文通したりで当時の話を聞きました。その人は、函館で非合法機関紙「戦旗」頒布の件で投獄され、その後当局の監視を受ける「元思想犯」だった浅井喜一郎さんです。当時昔小牧の老人ホームで暮らしていました。

思想犯を長田野（福知山）で訓練、ボルネオへ島流し

星田 淳

（北海道エスペラント連盟委員長）

た。ところが程なく北ボルネオへの派遣が決まり、7月ごろ第1次隊（図南奉公義勇隊）の1人として下関を出港、シンガポール経由でボルネオへ。

現地では「大和農場」を現地人を使って経営していたのですが「空きっ腹を抱えて」いたとか、順調ではなかった様子、現地人とのトラブルなどで殺された人もあり敗戦後帰国できたのは半数の15人、あとは戦死、戦病死とされています。（実際は、脱走、現地人との結婚は、脱走、現地人による殺害などがあつたのですが）

第2次隊は13人派遣されましたが44年10月マニラ湾で潜水艦攻撃を受け沈没、生還者は4人。第3次は募集は行われたが実行されませんでした。

当局の機密書類に「思想犯は内地に生きて帰さないように」とあり状況によっては殺してしまうはずだったのですが、敗戦で実行できなかつたようです。

第1次隊30人のうち北海道出身者は5人、全員生還。このうち2人と当時の国家賠償請求同盟北海道支部の責任者がエスペラントの仲間、私の連絡を経て史実の究明が進んだことに不思議な縁を感じています。

浅井さんの思い出と、関西エスペラント連盟（当時）の宮本正男さんや治安維持法犠牲者国家賠償請求同盟の調査で、かくされた歴史の暗部が次第に見えて来ました。

1942年東条内閣が極秘の閣議で「思想犯前歴者の南方占領地への島流し」を決定。当初フィリピンのミンダナオ島を予定し、44年5月ごろ候補者を集めて京都府長田野（現福知山市）で合宿訓練が行われましたが戦況悪化のため中止されました。

Kontraŭregima Esperanto-Movado

kaj ombra flanko de historio

反体制エスペラント運動と隠された歴史の暗部

HOSHIDA Acuŝi

(Prezidanto de Hokkajda
Esperanto-Ligo en 2008)

--el organo de Societo rankonti historion de
demokretiga movado en Kioto

En televida programo de NHK (Japana Brodkasta Korporacio) komponisto KOBAJAŜI Asei parolis pri sia sperto de infana tempo, ke lia patrino kaj ŝiaj esperantistaj kolegoj forfuĝis tra fenestro kaŝinte dokumentojn, kiam policanoj venis por kontroli kontraŭregimulojn. Eble ili estis membroj de tiama organizo de proletaj esperantistoj.

Esperanto, la internacia lingvo, celanta konstrui grandan familian rondon de la homaro trans limoj, ĉarmis ankaŭ divers-tendencajn kontraŭregimajn aktivulojn.

Tiama politika polico (Tokkoo) severe subpremis ankaŭ tiajn esperantistojn.

En 1942, dum la Pacifika Milito, tiama japana kabineto de TOOĴOO Hideki decidis en sia sekreta konsiliĝo ekzilon de "politikaj krimuloj" (kontraŭregimuloj) al suda teritorio tiam okupita de Japana armeo.

La unuajn ekzilintojn oni sendis al Borneo julie de 1942.

Ĉirkaŭ 30 senditoj tie entreprenis agron "Jamato" per tieulaj dungitoj, sed ŝajnas, ke la afero ne iris glate, ĉar tiama ekzilito konfesis, ke li estis ĉiam malsata.

Tiu ekzilito estis S-ro ASAI Kiiĉiroo, kontraŭreĝima esperantisto aktivinta kaj arestita en milnaŭcent-tridekaj jaroj en Hakodate, Hokkajdo.

La dua grupo estis 13 senditoj, sed ilia ŝipo estis atakita de malamika submarŝipo en Golfo Manila, povis reveni Japanion nur 4. Ankaŭ la tria sendo estis planita, sed ne efektiviĝis.

Troviĝis tiama sekreta dokumento de la registaro: "Politikajn krimulojn ne lasu reveni vivaj al Japanio". Sed, eble pro la malvenko de japana armeo, S-ro Asai kaj aliaj povis reveni Japanion.

Ĉirkaŭ 1978 S-ro Asai estis en malsanulejo de Tomakomai. Laŭ lia konfeso klariĝis tiu "Ekzilo de kontraŭreĝimuloj", la ombra parto de la historio, Ankaŭ en parlamento okazis diskuto pri tio.

78129 年 氏

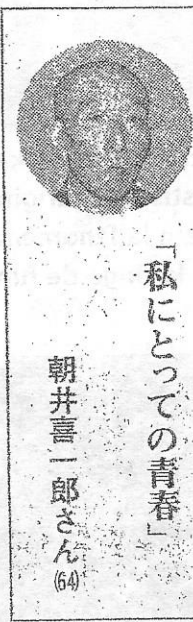
「銀教室」高齢者の主張から

⑦

意識的、自覚者としての私の青春は、娘の誕生に始まる。それは数え年二十四の時、娘は書(みどり)と名付けられた。困窮したスエーデンの旗は「緑の星」で縁は平和の象徴です。

習より二つ年上の長男が誕生して百十日目の、真冬の暗い明け方、けん銃で武装した五人組の警察官に自宅から連行された時、私はその後、私に訪れるであろう父の死も妻の懐妊も予想出来ませんでした。夫の死が決定的なものとして妻に宣告され、そのため一週間と区切って許された私の帰省が、娘の誕生を招きました。父の死と引き換えに娘の誕生に、私は青春の証と決意を感された思いがします。

から漢口陥落を祝う提灯行列を遠望しました。夜空に連なる火の色は虚しい赤光が、今も鮮烈に輝きます。私の青春は平和への希いです。侵略戦争への憎しみ、平和と対立する戦争の青春。個々の青春は終



「私にとっての青春」

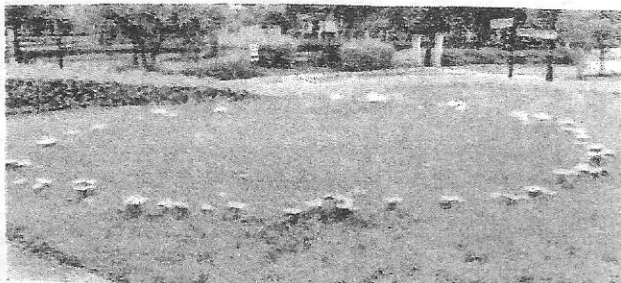
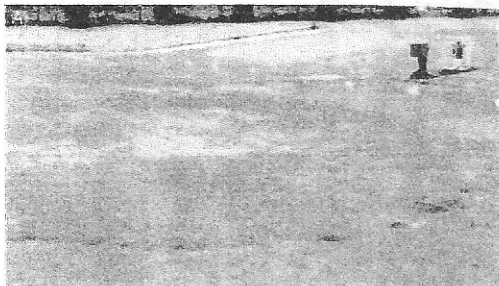
朝井善一郎さん (64)

歩手前まで追い込まれました。英植民地後もしばしば暴を犯して風習を守り続けた首狩りムルツト族の斬首から私を文通と面会のみ、ホームの友人はエス、ラングネストの『有事立法』是非の論議もラジヲを通して読みました。戦争の青春。個々の青春は終

の晩秋の気配がたちまちシャングルの瘴氣(しょうき)に変わって私を包み込みます。私たちが侵略戦争の主人公になる可能性は少ないでしょう。だがよう兵になる可能性は大きい筈です。戦争に巻き込まれた時、私たちがよう兵として布り渡すことは決してないの保証が何処にあるでしょう。しかも主人公が仮面をかぶり捨て、侵略者に変ぼうするか知れたものではない。歴史的に侵略を旗印に戦争を仕掛けた例は絶無です。仕掛ける側が常に正義の上で、平和を愛すればこそ、戦争だと叫んでみせる。植民地であることからの独立、奴隷であることからの解放、はそ

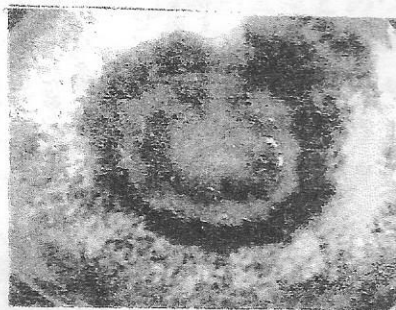
Feina Ringo ~ Feino kulturataj terproduktaĵoj !

Ĉu vi scias "Feinan Ringon"? Parto de gazono iam kreskas en ringa stato pli bone ol ĉirkaŭ herboj kaj poste aperas fungoj tie. Bild' 1, 2. ĉi-sube



Ĉi tiu fenomeno estis sciita malnove kaj oni diris, ke feinoj dancas en la ringo noktomeze. Sed estis malklarigite, kial ĝi okazas.

Mia amiko H.K.* trovis iam la fenomenon en universtata tereno. Li esploris ĝin kaj trovis, ke ĝi estis la ringo de fungo, *Lepista sordida* (コムラサキシメジ).** Bild'3



Bild' 4 Funga hifo*** kreskas ĝenerale en ringa formo.

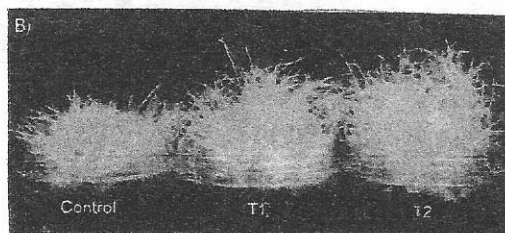
Li volis klarigi, kiel la fenomeno okazas.

Estas ofte observate, ke hifo*** kreskas en ringa stato dum kulturo de ĝin en laboratori-telero. Bild'4 supre

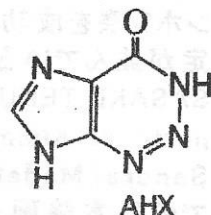
Li rezonis, ĉar kreskita funga hifo sekrecias iun materion, kiu kreskigi planton, kaj do herbo kreskas kiel ringa formo.

Li plantis herbon en vitra ujo kun tero infektita de la funga hifo kaj komparis kun ĝi en ordinara tero. Komparo de tri ujoj montris, ke la fungo reale efikis al kreskadon de herbo. Bild'5

Tero en T1: infektita de 0.5g da la hifo,
Tero en T2: infektita de 1.5g da la hifo,
Kontrasto ne havas hifon.



Li kulturis la funĝon en kulturlikvaĵo kaj poste dividis tion en hifo kaj likvaĵo, kiuj estis respektive ekstraktita de ethyl-acetato. La lasta ekstraktaĵo efikis al bona kreskado de herbo. Li elprenis aktivan ingrediencon el la ekstraktaĵo. La purigita efikaĵo estis analizita, kaj li montris, ke ĝi estis 2-azahypoxanthino (AHX). Ĝi estas konata substanco sed estas unue elprenita de naturo. Li ekstraktis 0.033 g de AHX el 1g de la tero de T2. (Bild'5)



Ĝi reale kreskigis tre bone herbon.

Li provis plirapidigon de kureskado pri AHX al aliaj plantoj; rizo, tritiko, maĵo, terpomo, laktuko, asparago, tomato, kolzo, ktp, kaj en ĉiu okazo forta efiko estis observita.

Nun li trovis novan kaj tre fortan akceladon pri plant-kreskado. Donado de 0.6 g al pot de rizo plimultiĝis 25% de rikolton.

Grandeco de riza grajno ne ŝanĝiĝis kaj nombro plimultiĝis.

Plimultiĝo de rikolto estis 20% pri terpomo, 21% pri laktuko, 100% pri asparago! Krome tio estis malkovrita, ke AHX fortigis planton kontraŭ streso kiel alta kaj malalta temperaturo kaj damaĝo pro saleco.

Nun lia ĝardeno donas tre bonan rikolton fare de AHX.

Feina substanco estos la plej utila agrokultura medikamento en la plej proksima estonteco.

* H.K.= D-ro Hirokazu Kawagishi: Profesoro de Ŝizuoka Universitato. Lia studadoj estas raportita en diversaj specialaj gazetoj kaj enkondukita de fama scienca gazeto "Nature" vol. 505, p. 298 (2014). Ĝi tiu eksplikoj devenas de lia verkoj, kiuj aperis en "Kagaku" vol. 65, num. 8, p. 36 (2010) kaj vol. 71, num. 6, p. 12 (2016). Lia kureskigaĵo estas nun preparata kiel agrokultura medikamento por merkato en unu kompanio. Li gajnis la plej bonan premion de Agronomia Societo, Japanio pro tiu ĉi studadoj.

** Estas nun observite, ke 54 specoj de fungoj faras ringojn.

*** hifo = 菌糸

December, 15, 2018 H.Ŝirahama

Danke ricevitaj (星田津抜い、読みたい方にはご連絡ください)

* Ponteto(Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo) Novembro 2018, n-ro 291 B5x20 頁,のうち E.文 6 頁弱。トップ記事「ザメンホフ祭を成功させよう」で各地の予定が並んでいる。“論語世界語訳/SASAKI TERUHIKO”連載中、“Raporto el Kunming, Ĉinio/Ales-Sandra Madella”は昆明芸術大学での日本映画の講義、小津安二郎の作品、など。堀さんの気ままエッセー41 は「ウランバトル日本人抑留者墓地訪問記」。

* 受講生通信;第 181 号、2018-12-01,沼津エスペラント会、A4X10 頁のうちエスペラント文(合計)約 1 頁。札幌市の受講者 2 人の「たより」発見。がんばって!

* La Movado:関西エスペラント連盟(KLEG)発行、N-ro814 decembro 2018,:B5x20 頁のうち E.文 3 頁。巻頭記事は「第 2 回日韓共同開催エスペラント大会に 543 人」。「自著を語る」に「エスペラント 日本語を話すあなたへ/藤巻謙一」。

* NOVA VOJO :N-ro 556 decembro 2018, EPA(エスペラント普及会)、A5X26 頁のうち E.文は合計 9 頁。巻頭記事は「アジアの宗教交流をエス語で/鈴木穎一」。以下、「日韓共同開催エスペラント大会/奥脇俊臣」、「大本分科会/Macumoto Akira」、最後のページには北海道大会に来たことがある S-ro Suno(韓国)の写真も。

* ESKALO:川崎エスペラント会機関誌 No.171(2018 年第 5 号,2018/12/5 発行)。B5X8 頁のうち E 文 2 頁は地中海クルーズの魅力/Miwa Hiroaki。ほか第 2 回日韓 E 大会、10 時間入門講座報告、など。

* La Tamtamo; 第 515 号、2018 年 12 月号、NPO 法人エスペラントよこはま会報。A4X8 頁、日本文。トップ記事は行事予定(神奈川ザメンホフ祭、NPO 法人エスペラントよこはま総会、よこはま国際フォーラム 2018。追悼:広瀬香苗さん、発表:長谷川テル日関連して/村田和代、「学習会・講習会だより」で読まれている本は Tamen ĝi moviĝas!, Mondo de Travivaĵoj, Kuniberto kaj Kilevamba。

* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 343/decembro 2018,Internacia Gazeto de Esperanto Jokohama(Hama-Rondo)/エスペラントよこはまのエスペラント文会報、A4X4 頁。日本語会報 La Tamtamo と共通の内容も。Letero el Ukrainio はウクライナ E 大会とエロシェンコの記念碑についての Tamara Popova の手紙。

* La Movado:関西エスペラント連盟(KLEG)発行、N-ro 815 januaro 2019,:B5x16 頁のうち E.文 6 頁半。巻頭記事は“La 92a Kongreso de Kjuŝu brilis kun internacia etoso/HARADA Tsukuru”「各地の機関誌から」欄に「Amasloĝejo/磯貝尚武」で 札幌市の柳さんに送った Kabe の Faraono の日本語訳 CD について。「中古日本語の発音について/belmonto」は連載中の「源氏物語(Esp.・日対訳)」に使われている当時の日本語の発音表記の説明。“Mi vojaĝis al Kubo/SYŝYAMA Mikiko”は 9-a TAKE(Tut-Amerika Kongreso de Esperanto:全米エスペラント大会、2 月ハバナで開催)の報告。

* La Vulkano:N-ro 181, DECEMBRO 2018, LA ORGANO DE HU

KUO-KA ESPERANTO-SOCIETO:,
B5X8 頁のうち E.文 1 頁強は
“Venis gastoj el malproksima
lando. Ĉilio/MUTO tacko”. 日本
語記事は 2017 九州大会、ポルトガ
ル旅行記(2018 世界大会)、2018
九州大会、各地の講習会、例会記
事。いつもながらカラー写真が多い
(が、小さい)。

*NOVA VOJO :N-ro 557 janu-
aro 2019, EPA(エスペラント普及
会)、A5X26 頁のうち E.文は合計 5
頁。巻頭言:-- エスペラント・後継
者育成活動推進に向けて/吾郷孝
志。2018 出口王仁三郎賞受賞の
Katalin Kovats 氏の Letero(E.文)
が4頁。

Gramatika komento / 文法メモ

HOŜIDA Acuŝi

初めて習う文法で

形容詞は 名詞にかかる(修飾する) ということがあります。

使い方は

Bela(j) floro(j) 美しい 花

Floro(j) estas bela(j) 花は 美しい

ところでもう一つ、副詞というのがあって これは名詞以外
(動詞、形容詞など)を修飾するが わかりやすい例は

ザメンホフの Ekzercaro \$7 にある

Resti kun leono estas danĝere

でしょう。「ライオンのそばにいと危ない(危険だ)」

ですが「危険だ」なら danĝera と思ってしまう。しかし

ここでは「そばにいる」こと、つまり動詞を修飾するので

副詞の danĝere を使います。最近

Frostigadi viandon estas efika

という文を見ました。肉を冷凍すると寄生虫防止に

「効果がある」ということですが 凍らせる(frostigadi)という
動詞を修飾するのだから これは違う。efike になるはずです。

みなさん、時間があったら Ekzercaro にも目を通して

くださいね。

Protokolo de la 2-a Komitato Kunsido de HEL / Kasjaro 2019

2019 年度 第 2 回委員会 議事録

日時：2018 年 11 月 18 日（日） 13：10～14：45

場所：札幌エルプラザ 2 階 会議コーナー（18 名用）*

出席者：横山（司会）、後藤（義）、後藤（純）、山下、星田（記録）

欠席者：阿部

[組織]

- ・入会 2（立木ちはや、宮沢直人）
- ・退会 1（末永章子）

*10月の HEL大会後の 第1回委員会は 通常 役員の分担確認のみで 終わっていたが 今回（第 82 回大会）は 事務局長から辞任の意向が出され 後任の選出ができないまま 時間切れになった。また阿部会計担当委員の 発病入院により会計担当選任の必要がある。

活動できる委員の人数不足が明らかになってきたので 阿部委員の提案 「エスペランチスト学生・院生等奨学金」(案)

について 阿部委員、横山委員長、宮沢氏 が打ち合わせ協議中……
という経過報告(横山) が あった。

この件については 1月の委員会で 宮沢氏、川合元事務局長も出席して 報告される見込み。

[財政]

・担当者(阿部) 療養中欠席のため 当座の対応を 次のように決定。
会計担当：山下委員

これに後藤純子委員が協力し、後藤義治委員は貸借対照表などを作成する。

・名簿整理、発送宛名印刷に便利な PC ソフト FileMaker を購入したい(横山)

承認された ¥約 3 万 6 千円

[広報] (横山)

- ・ HP のアクセス数は 591 992 件 (2 か月前比+225)。
- ・ メールマガジンは休刊中。
- ・ 苫小牧市民文芸 2018 vol 60 (11 月発行) に 星田淳が
エスペラントによる寄稿などについて発表
(Heroldo de HEL N-ro 180, 16,17 頁)
- ・ 11 月 10 日、国民救援会苫小牧支部の依頼により
第 40 回苫小牧支部大会
に出席し「エスペラント活動と 人権を守る闘い」という演題で
治安維持法時代の日本での状況などを話した(星田)。

[教育・研究]

- ・ 札幌 E 会 (後藤 (純)) : 『De Patagonio ĝis Alasko』の講読中、1/3
ぐらいまで。意欲ある新規参加者 2 名『エクスプレス エスペラント』
使用)。
- ・ 苫小牧 E 会 (星田) : 例会は 1 回/月だが、病欠者のため休止中。。

[機関誌] (星田)

- ・ 11 月 18 日、「Heroldo de HEL」 n-ro180 を 80 部発行した。全 20
ページ。

[年間計画]

- ・ 来年北海道大会の講演者として 道外の人から「この人はどうか」と
の提案を受け、委員会で検討の上 受けることに決定。
(詳細については提案者から公表可の連絡があつてからお知らせしま
す)・この講演者の日程の都合で来年の道大会の時期は 11 月 1~5 日
ごろになる。

[次回委員会]

2019 年 1 月 14 日 (月・祝日) 13:00 より、札幌エルプラザ 2
階会議コーナー (18 人用) にて。

【編集後記/Redaktanto parolas】

*この機関誌のページサイズはB5です。プリントした原稿を送って
くれる方は当然わかっているはず、と思っていたが失念(?)する方
も? 街のコピー機で縮小印刷する仕事が増える。よろしく。

*ドイツに留学した覚知さんからの原稿。海外からの投稿は 今まで
あったかな? 続報も期待!

*9頁の講演会の内容は ほぼ10頁の記事とおなじ。13ページの
コピーは「島流し事件調査」のきっかけになった情報提供者、朝井(エ
スペラント人名事典では浅井)喜一郎さん(1914.9~1982.9.16)の手記
(苫小牧民報)。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、 青年会員(26歳未満) 1500円、
購読会員 2000円、 家族会員、失業者など割引 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

*Redaktas la Organa Fako de HEL
c'e HOSIDA Acus'i

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS: 0144-74-2539

Retadreso: hosidaacusikir.biglobe.ne.jp

*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 100, Simin-Katudo-Sapoto-Senta
Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3
Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

TEL-FAKS: 0123-88-3752

Retadreso: kunespere@olive.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm>

*Pos'tg'irkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

北海道エスペラント連盟

*編集: 連盟機関誌部

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

*事務局: 川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動サポートセンター 1階 No. 100